



稲羽の素兎

*いなほ
稲羽に麗しい八上比売が住んで
いると聞いた多くの兄弟神たちは、
おおくにめしのみこと
大国主命に大きな袋を背負わせ、
旅立ちました。

おおくにめしのみこと
大国主命が、兄弟神たちを追っ
て、気多の岬を通りかかりますと、
いた
痛み苦しんで泣いている赤裸の兎
がおりました。尋ねてみますと兎
が言いました。

「隠岐の島から、この稲羽に渡ろ
うとして、鯨に仲間同士の数較べ
をしようと思いかけてました。一列
に並んだ鯨の背を、数をかぞえな
がらトントンと調子よく跳ね渡り
ましたが、もう一息のところまで騙
したことを言ってしまうました。
すると、怒った鯨に皮を剥がされ
てしまいました。痛くて泣いてい
ましたところ、兄弟神たちに海水
で洗い、風に当たると良いと教わ
ったのです。」

そこで、大国主命は「すぐに真
水で洗い、蒲の穂の花粉を散らし
た上に寝ころべば肌も元のように
なおる。」と教えてやりました。

すこ
健やかになった兎は、後に兎神
になりましたが、大国主命に「あ
なたこそが、やがて立派になられ
て八上比売さまをめとられます。」
と予言されました。

*稲羽
いなほ
因幡国のこと、現在の鳥取県東部を指す。